

第7回
多可町生涯学習まちづくり委員会

会議録

《概要版》

事務局 多可町生涯学習課

第7回多可町生涯学習まちづくり委員会 会議録

- 日 時 令和5年5月22日(月) 午後7時30分～午後9時30分
- 場 所 アスパル健康福祉センター 研修室
- 出席者
- ・委員 7名/12名(敬称略)
近藤 文好 杉本 真 山本 和樹 小林 一光 山本 早希
立岩 一真 後藤 さおり
 - ・欠席委員 蔦木 伸一郎 遠藤 ひとみ 藤賀 幸子 小寺 祥之 石塚 郁
 - ・事務局 生涯学習課 課長 藤原 徹
副課長 梅田 一志
副課長 中里 尚子
課長補佐 橋本 行広
理事兼教育総務課長 金高 竜幸
教育総務課 図書館長 依藤 啓子
- 議 事
- (1)「ベルディーホールの立上げ」に学ぶ 講師：宮崎和明 氏
 - (2)今後の委員会の進め方について
 - (3)その他
- 会議結果
- (1)「ベルディーホールの立上げ」に学ぶ 講師：宮崎和明 氏
ベルディーホールの建設の経緯
運営評議員会の話
住民企画の話
人材育成の話 etc.
 - (2)今後の委員会の進め方について
 - ①多可町生涯学習まちづくりプラザ建設基本計画の基本理念
「地域社会の中でみんなに出番があるように、生涯にわたって知識を深めるための居場所や集える場の整備をめざす。」を元にしながら、わかりやすいキャッチコピーを考える。
 - ②愛称の募集の検討
委員会で決めるのか、公募なのか、ワークショップなのか
 - ③運営形態の検討
町営なのか
有志によるNPOに任せるのか
指定管理なのか
ベルディーホールのように運営評議員会が関わっていくのか
 - (3)その他

■ 会議の経過

<p>次第 1</p> <p>(事務局) (教育総務課長) (図書館長) (生涯学習課長)</p> <p>(座長)</p>	<p>開会</p> <p>自己紹介</p> <p>座長あいさつ</p>
<p>次第 2</p> <p>(宮崎和明さん)</p>	<p>「ベルディーホールの立上げ」に学ぶ</p> <p>いま紹介いただきました宮崎和明と申します。私は年齢が 71 で十分な高齢者になってしまっているんですが、33 年前にこのベルディーホールを建てて運営する段階ではまだたぶん 30 代でしたかね。今、若者という言葉聞いてドキッとしたんですが、多少それに近い段階だったかもしれません。</p> <p>当時、私の本業は中学校の教師でした。本業は神社の神職というのもあるんですが、神社も社会教育のルーツを辿ると行き着く場所でもあるので、まんざら違和感があるわけではないんだろうと思いますが、そういう経過を通して途中から社会教育主事という役職で、社会教育に携わるようになったタイミングにたまたまこのベルディーホールの立ち上げに関わったという巡り会でその頃の事を思い出しながら、行きつ戻りつの話になるのかなと思いますが、聞いていただけたらと思います。なかなかのはずれて何の参考にもならんと雑音ばかりで足を引っ張られるような話をしているじゃないかということになるかもしれませんが、私の気持ちとしては、皆さん方の取り組みがちょっとでも有効に前に進んで成果としてきちっと出るようなそういうヒントになればいいなと思いますので話したいと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>皆さん方の手元には A4 の紙一枚、建設経緯等書いた紙とホール運営とはそもそもどういうものかというものが昨日の新聞に出ていましたのでそれをちょっと見ていただきたいと思います。</p> <p>まずは建設経緯の A4 の紙の方から行きたいと思います。私が社会人になったのが昭和 49 年に中町中学校に勤め始めたんですが、その頃中町中学校の体育館、前の体育館です。同じ頃に中町の中央公民館、今の中プラザと呼んでいるあの建物が 48 年 49 年頃にできて、だから非常に私は中町の新しい施設に恵まれた中で社会人生活を始めたという非常にラッキーな立場でした。ただ、私は社会科教師だったんですが吹奏楽部の顧問もしてまして、当時中央公民館には大会議室があり、中学校の体育館も新しいということで、それはそれで恵まれていたと思うんですが、例えば吹奏楽コンクールの練習をする時にやっぱりちょっと響きの良いところで練習したいなとかそういうふうに思うわけです。今の中プラザの大会議室はちょっと舞台も狭いし、20~30 人のバンドでやるには音が響きすぎると、非常に贅沢なことではあるんですがそういうやっぱり不満もありました。それはいろんな地域のコーラス団体とかも、もうちょっとホールらしい設備があればいいなという声が昭和 50 年代しきりに言われていて、私もその一人としてそういう運動ということとしてはしてま</p>

せんが声がありました。

ここにあるように昭和 54 年に社会教育施設の建設計画が立案されるということで、そのあたりから非常に具体的な流れが出てきました。56 年には土地収用法事業認定の申請。そして 57 年に建設用地を確保ということで、この 9944 m²というのは今のベルディーホールの敷地です。横幅が 50m くらい、中学校に向かっての南北の縦幅が 200m くらいですかね。あの中で借地も若干あったんですが、そういった土地がだいたい見えてきたということで昭和 62 年にチームを発足させて、各地の施設調査や施設視察を行い、文化体育館計画ができるということで、私も当時社会教育主事という段階でしたから、学校の教師から社会教育担当のいわゆる社会教育の上当たるという立場で町職員と同じような動きをさせてもらいました。この当時、一番身近な例で言うと吉川町の文化体育館というのがあってそれを見に行ったりしていました。似たような施設は、例えばイスが後ろに収納するようなやつ。城崎の大会議館とか春日の文化ホールもそうだったかな？ そういったところ、当時最初はやっぱり社会体育の側からもそういう設備が欲しいということ、今のアスパルのようなものが全然ありませんでしたのでそういう 2 つをひっくるめたような案もありました。しかし最終的にはあまりにも多用途過ぎるなということで、どちらにしてもやっぱり不満がでるわけです。中学校の体育館があるのにわざわざ文化体育館なんていうのはちょっとムダな気がするというふうに文化的な側からいうとそういう気持ちもあるわけです。体育の方からいうと体育館はやっぱり 2 つくらいないとこれだけ社会体育の種目がたくさんあるのにあれではちょっと無理だという

そのへんがずっとありました。結果的には文化会館という形でちょっと軌道修正のような形になります。これからすれば多用途ホールということで、当時はだんだん豊かになってきた時代で、音楽ホールとか演劇ホールとか同じ文化ホールでも専門性を生かしたそういう流れが一方でありました。仙台の郊外に中新田パッハホールというのがあるんですが、名前からしてクラシック専用ホールですね。瀬戸内には瀬戸田のベルカントホール、ベルカントというのはクラシックの奏法。「千の風について」とかああいう歌い方をするやつです。ああいう音楽専用ホールが欲しいとかありました。この近くには東条のコスミックホールがベルディーホールの 1 ヶ月前、ほぼ同じ時期にできたんですがあれが音楽ホールです。いろんなその流れがありました。最終的に選んだのが昭和 63 年の段階で文化会館の建設。ただしさっき言いましたように多用途ホールです。音楽とか演劇とかあまり絞り込まずに。こんな田舎でそんな専用ホールを造ったってなんぼお客さん入るんやとそれは贅沢すぎるということで、確かにそうだとは思いますが。音楽はともかく演劇ホールなんか造っても何百人と田舎でそんなうまるはずがないだろうということもありましたし、そんな演劇グループがたくさんあったわけでもありませんのでそういう形で昭和 63 年のコンペ発注からずっとどういう採用をしていくかということで最終的には 4 つの図面を見ていったんですが、例えば今のベルディーホールの建物、皆さんも毎日のようにご覧になっていると思いますが、ちょっと面白い建物ですよ。タワーみたいなのがあって、あれは火葬場の煙突かみたいな言われ方をしたこともあったんですが、あれは昔の芝居小屋とか相撲の巡業でもそうだと思いますが、のぼりを掛ける PR 広告塔みたいなものです。あれをタワーにしようとさせて。ここは播州歌舞伎の本場でもありますので播州歌舞伎をイメージしたというようなことで設計案を採用しています。北居設計という会社が監修者に山崎泰孝さんという方

をお迎えして、この方は京都の南座の改修に関わった方で、2階席のちょっと斜めに2列にある座席があるんですが、あの間隔が南座の芝居小屋に近いんですかね。短所を言うと見えにくいところもあるというところがあるんですが、ああいう芝居小屋のイメージ。だからあのタワーも芝居小屋ののぼりをぶら下げるそんなイメージにしました。最終的に12億8千万で入札することになるんですが、当時バブルの時代で非常に人件費も上がったりしてなかなか入札できなかったです。あれも3回4回くらいして落ちなくて結局設計の大きさをちょっと縮めた。あのタワーも多分2mくらい小さくなっていると思います。金額を抑えるために。金額を落とす建物にしてなんとか前に進んだというそういうことを覚えています。当時、鍛冶屋線が平成2年の3月31日に廃止になるということで、ちょうどレールが消えると同時にベルディーホールの足場も消えていったというか、鍛冶屋線の廃止とベルディーホールへの立ち上げがクロスしたようなそんな時期でした。そういう形で出来ていったんですが、この後10周年なんかでもその当時のことを話した記憶があって、結局後々まで問題に残ったり、これは良かったなあれはダメだったとかいくつかあったと思うんです。10周年の機関誌を見ていたら駐車場が北側にあって玄関が南側にある、あれはなんとかならなかったんとかかね。動線が非常にもったいない。あれも借地がちょうど真ん中へんにあったりとか、水路があってそれをこうするとまた工事がかかるとかいろんな要件があって、ああいう形にならざるをえなかったんですが、やっぱり良かった部分悪かった部分というのはいつまでも引きずる部分がありました。でも、一番大事なところはソフト面をどう考えるかというところがもっと大事なことじゃないかということで、いわゆる文化ホールのソフトに関わる部分というのは、実は人材面で非常に制度的に不備があった。例えば学校だったら先生がいる、病院だったらお医者さんがいる、図書館なら図書館司書がいる、博物館なら学芸員がいる、それぞれにそういう法律がある。博物館法とか図書館法とか。公民館なら社会教育主事がいる。公民館法で定められています。そういう運用する専門職員がいるんだけど、文化ホールに関してはそういった法律もなければ専門職員をおかなければならないということは全然なかった。それがあとになってからA3の紙に出ています指定管理者制度と。これは直接メリットばかりではないんですがそういう運用の仕方も出来ますよと。あるいは劇場法というのが平成24年でしたかにできて、そういうアートマネジメントをする、つまりこういうものを舞台に乗せてこういう仕掛けをしていくとか、こういう人に来てもらうとか、専門員か専門補助という形で運用していくという形のものでできていったんですが、当時そういうものがまったくないというのが一番不安材料でした。どんな立派なホールが建ってもそういうことがわかってなかったら何もできないということで、当時奥村和恵さんが親子劇場の主宰者ということで、そういういわゆる舞台芸術をマネジメントしていくのが業界では必ずいます。プロデューサー的な人が。そういう人が舞台に立つ人、役者さんとかオペレーターといって照明・音響を動かす人達を上手く動かしていく。カレンダーを作って何時くらいからリハーサルをするからこういう準備をしてくださいとか、舞台の上に皆バツと立って頭の上の照明をするのに下に役者さんがいたら邪魔でできないとかそういうのが絶対ありますから、そういうことがわかっている人がやると。我々は文化ホールの要望をしたときには、東京や大阪の街のような大都会でやってる芝居や音楽を見たいというのが1つはありますよね。街に行かないと見られないものを田舎でも見たい。まずどこから呼んで来て見せてほしい。それともう一つは自分達がやっているいろんな発表の場

を素晴らしい舞台設備がある場所でやりたい。裏方はそのころあまり考えていなくて、オペレーターの仕事なんか素人でもできるようなちょっと甘い見方もあって、それはちょっと甘かったなというのはあるんだけど、そういう両面を満たすためにやっぱりそういうものを動かせるような自分達の研修が必要だろうということでもボランティアオペレータークラブ。これはオペレーターっていうのはさっき言いましたように音響・照明等の舞台まわりの設備をどう動かしていくかということ。こういう動かし方をすればこういう構成演出ができる。こういうサプライズがおこせる。こういう深い感動が与えられるというそういう仕掛けの操作です。こういうのを本当は自分達でもやりたいわけです。あるいは注文をつけたい。例えば今年の6月4日にフィオーレの「40周年+1」っていうのが確かありましたね。フィオーレは40年前だからベルディーホールが出来る前から発足していて、だからそういうホールが欲しいという要望の中には私たちのコーラス発表会を素晴らしい照明設備・音響設備を駆使して盛り上がるミュージカル的な要素を入れたみたいなの、そういうものをやってみたいというのもホールの建設要望の中に入っているわけです。街の音楽を呼んできてやるというよりは、地域文化を育てるというのは最終的にはそれが目標ですから、やっぱりそれはまちづくりの一番大事な要素です。そこで今の私達の話とクロスする部分だと思うんですけど、それをできるだけ早く立ち上げようと、できてからではもう遅いし間に合わないということで、ホールは平成2年の7月に竣工するんですけど、それより半年前の平成2年の1月2月の段階で、役場の古い建物の一角、こういう何もないような場所を1つか2つ借りて、そこで例えば音響の重たい設備を持ってきてこれをこういうふうにぶら下げたらこれくらいの光が広がるだとかそういうことをクラブをつかってやりました。結果としてやはり入場料を取る催しものに、アマチュアとプロが入り乱れて実際に活動することはありえないと。お客さんは失敗を見たときにここはどんなオペレーターがやってるんだということしか見えないから、やっぱりオペレーターの会社の責任者としてはたとえ素人の方の発表会であっても入場料を取るようなケースでそういう失敗があったら許されないから、それは練習とか講習でやることはいいけれども本番ではあなた方は入ってもらったら困りますとか、そういう実際の運用ではいろんな失敗もあったんだけど、それでもたとえ練習でも例えば音楽祭とか文化祭とかいうとき、中町中学校の文化祭なんかあとで行われるようになるんですが、そういう時にピンスポットライトなんかは先生がここだけ入ってもいいだろうとか、そういう多少一緒に共有しながらやっていくと。その中で私達の文化の力を整えていくと。そういう点ではまあまあ失敗ではなかったと思います。そういった全体的なプロデュースを運営評議員会でやっていく。運営評議員というこういう人材は図書館における図書館司書とか公民館における社会教育主事とかそういういわゆる専門職員にあたる部分をどこかで肩代わりしたい。地域文化を育てるという方向にちょっとでも前向きに進めるためにちょっとでもそういう文化のことを知っている、私らは知ってる部類には入らないが、コンクールに出るために、いろんな練習の工夫とか会場の工夫とかその中で学んだことを新しいホールに生かせるものがあればということで参画していったんですけども、そういう形の流れですね。このあと住民企画の組織とかフルハウス616とかいろんな組織が出来上がっていきんですけど、一番最初に立ち上げたのはこの2つあたりがオープン前から出来ていたものです。そういうことを今の生涯学習まちづくりプラザにしてもほぼ似たような目線で取り組まれているんだと思います。共通項はどれくらいあるかわかり

ませんが、私達は運用面で例えばベルディーホールと当時中町中央公民館とっていた今の中プラザ。道を挟んですぐ隣にあった。ベルディーホールは立派なホールですが、練習場所とかりハーサル会場をやる場合にちょっと足りない部分があった。音楽祭とか芸能祭とかやる時に5つも6つも団体が順番を待ちながらハーサルをやって舞台の袖いって片付けて着替えをしてというにはちょっと大変な、そういう場合には公民館の場所も2つ3つ借りながら一緒に運用していくとかね。練習は社会教育団体として無料に近い状態で借りられる場所として公民館。よそ行きの場としては設備がすごい整っているのは当然お金は高く取らざるをえない。持ち出しにはなるんでしょうけれど、やはり高い金額を取って練習場所がホールばかりに集中しないようにいろいろ使い分けをしながら、日常活動の場とよそ行きの場そういう分け合いで運用していこうということでそういうルールづくりをしていった。そんなことで今回も生涯学習まちづくりプラザっていうのは複合施設でいろんな設備があるんですが、やはりよそ行きの発表の場としてはベルディーホールを使う事が今後も出てくるだろうし、いろんなよそとの施設との連携があるときにこの距離感はどういうふうに影響してくるんだろうとか多分出てきます。今だったら今度のまちづくりプラザの場所はほぼ決まっていると思うんですが、あそこの場所とベルディーホールの場所かなり離れているけども上手くネットワークが組めるかなとかそういったことのヒントに逆に考えていただけたらいいのかなと思ったりします。生涯学習の施設と文化ホールとはちょっと役割とかミッションも違うには違いますが、とにかく今までにない発想で考えていくということが大事なことだと思いますし、特にまちづくりプラザの場合は図書館とか男女共同参画とか子育てとか3つ4つの狙いがありますから、それぞれにミッションが違います。一方で共有ゾーンっていうのがありますよね。今まで単独の図書館、単独の子育ての施設、そういったところで出来なかったことが、まだ想像が十分出来てないかもしれませんが、私なんかはそうです。共有ゾーンでこれだけの場所をつくったけど、どういふプログラムでどういふことをしたら図書館プラス子育てセンターの1+1が3になるようなそういうどんなメニューが組めるかとか。私達はベルディーホールのあと、例えば図書館を建てるときにどういふボランティア組織がつかれるのかとか、あるいは生涯学習の中でいうと今でいう生活創造大学。あれは20年ほど前に立ち上げた、あれ最初、私達、企画運営評議員のメンバーで何人か入ってつくったんです。そういうデータは参考になるし、今皆さんが考えていることにも多少つながる部分があるんだろうと思います。私が更に遡って言いたかったのは、生涯学習の複合施設の違いの中で嬉野台生涯学習センターってあるんです。これは昭和53年ですかね。私社会人になって昭和51年に青年洋上大学っていうのに行って、その後帰ってきて次の年度の洋上大学の候補の1人、アドバイザーで来たことでオープン間近の生涯教育センターで宿泊研修をやったりして。で、一番最初に使ったメンバーとして記憶にあるんですが、その時にいたのが池田寛先生とか今中喜重郎先生、後に中町、加美町の教育長になられる方です。あの人達がいろんなプログラムを考えてました。県の施設ですから立派には違いないんですが、参考になる部分とまらない部分があるかもですが、学校教育からいったん完全に外れようと。学校教育は当然品行方正に活動してもらわなければなりませんから、それなりの設備、ムダな設備、贅沢な設備、不必要な設備はつける必要はありません。青年の家とかもそうですね。青少年もそうです。ところが嬉野台へ初めて行ってびっくりしたのは、成人宿泊棟に麻雀のパイが置いてあって麻雀の卓がありました。お酒も飲めるんで

す。で「えっ」と思ったんですが、やはり生涯学習、生涯教育は完全に衣を脱いで、まあ企業の研修とか社会人のいろんな企業研修とかも使ってますので、そういうときには本音でぶつかってそういう場も必要なんだと。学校教育の延長みたいなので考えたとしてもじゃないけど無理だとかね。それちょっとびっくりしたこと覚えています。それから南ヨーロッパ風のアーチ型のかなりモダンなデザインで、もっとびっくりするのが電柱が一本もないんです。昭和 50 年代の前半にあれだけの広い場所に電柱が一本も見えないというのは非常におしゃれでしょ。すごく非日常的な、建物もモダンだし非常にハイカラというか、そういう設備を最初に組んだっていうのはすごいです。兵庫県の坂井時忠という今も坂井時忠音楽賞とかいって、あの人が文化をずっとそういう目で見てみたいですね。そういうものを池田先生や今中先生も見て、例えば池田先生だったら中町で地域の伝統文化を育てるということで、北小に播州歌舞伎クラブをつくるとか、南小だったら播州柏、杉原谷小学校では杉原紙で卒業証書をつくる。あれが今ずっと多可町の卒業生はみんな杉原紙の卒業証書をもらう。地域の文化を発掘してそれを子供達にも。あれは生涯教育センターで培ってきたものの一つだと思ってるんですけども、そういう意味でああいう発想とか人材が育っていったというのは、私はもう一度見つめ直してほしいなと思って書き上げました。今 30 年経過していろいろ失敗とかあるんですけど、幸い多可町でずいぶんお金をつぎ込んでいただいて、改修でも照明設備、音響設備、舞台まわりの設備、トイレからカーペットにいたるまで 30 何年かの間にほとんど替えてもらっています。やっぱりおしゃれな場所でちょっとでも良い空気。心理的です。気持ちの良い癒やされる場、心が開放される場という本当になかなか贅沢、医療や福祉のことを考えるとそんなんはあってもなくても命には関係ないというものですが、やっぱり我々震災とかいろいろなものを経験した中で文化の果たす役割というのは、こういうときに涙をとんと流してそこでやっと救われる部分があるんだとか、癒やされる部分があるんだというのは、単に事務的な狭い意味での教育というのではなくて、心を揺り動かされる体験をもつ、そういう場所が絶対に必要なんだということは、これは贅沢とは別の次元で考えなければいけないということで理解した部分もあります。そういうことをしきりに思うわけで、住民企画の運営とかフルハウスとかもそういうことで、フルハウス 6 1 6 というのは民間メセナということで、行政にいろんなお金を要求するのは確かに申し訳ないですよ。だからフルハウスのような応援団をつくっておいて、これはとてもじゃないけど一般会計の予算ではとても落ちないようなものをそういうところで、まあ寄付みたいなものです。例えば役者さんがこういうことで粹に感じて来てもらったから我々も粹に感じてこういうことで歓迎会を持ちましょうとか、ギャラの中に全部入っているんだからそんなもんいちいち歓迎しなくてもいいとかそんなことじゃなくて、やっぱりお客さんと役者さんと一体になって舞台を盛り上げる。その仕掛けを一つでもたくさんつくる。それには普通の予算ではなかなか認められないことをフルハウス 6 1 6 の予算を上手く活用させてもらって、より豊かな発表の場、体験の場、感動の場をつくっていかうとそういうことです。住民企画の場合もそうです。固定された、もちろん 2～3 年で変わってくるんですが、運営評議員さんが今までの人脈とは全然違う発想で新しいものをつくっていく。今の例でいうと、A 委員が前にいらっしゃるんで落語と吹奏楽のコラボで今度 6 月にあります。あれも落語のグループが多可町にたくさんあって、こういう企画がプロとできますよということで。これは評議員さんの発想からはまた別の発想で。我々は実行委員会のメンバーであって 2 0

人いるんだから20人が1人10枚売ったらなんぼとかそういう計算もしながら、やるからには満席をめざすということで、評議員のメンバーも頑張っているけれども我々も1回1回のそういう住民企画というそういう方式でやっていこうというので出てきたものです。そんなことを生涯学習まちづくりプラザでも初めから動かせるような。人の問題っていうのは最後まで出てくると思います。さっきのA3でも劇場法の説明がありましたが、アートマネジメントが出来る、生涯学習の場合はそういういろんなカリキュラムが組める、今の生活創造大学のメニューのようなものです。こういう形で我々が企画の段階から作りあげることによって、より太い豊かなものを、あるいは生涯学習の我々の民度のレベルアップを目指せる。次のまちづくりに生かしていける。ああ多可町っていうのは良いとこだなあということで移住してくる人が増えるとか。そういう良いまちだなとこういうそういうものをつくりあげる、醸成していくということで、このまちづくりプラザがマネジメントをしていく人材を養成しながらそれを最初の段階からコーディネートしていくアドバイザー的な人が最初の段階からほしいし、それをその次にやって来た人がそれのあとを継いでいける。そういう循環的な人材養成の場にもなるようなそういうプラザであってほしいなというのが今も感じている願いです。ホールとまちづくりプラザっていうのはかなり違いますけど、やっぱりよそ行きの場合とか日常活動の場とかいろんな捉え方によってつながっていくものだと思うし、ネットワークを組んでいかないといけないということがこれからは絶対必要な事だと思うので、まったく的外れな話をしているつもりは私はないんですが、皆さんの方で今聞いてもたぶん関係ないだろうということもあるかもしれませんが、そういうつもりで話をさせていただきました。ちょっと話は飛んでしまいましたが、最後に山田錦とか敬老の日とか杉原紙、播州歌舞伎というのを書いてますけど、多可町はこういうものを「売り」にして、自然がいっぱいではかは何にもないというその裏返しみたいな言葉ですけど。自然のほかには何もないといっても、実際に山田錦、敬老の日、杉原紙という素晴らしい文化をもってますから、そういうものをまちづくりに生かしていくという意味ではこのプラザは絶対有効に。それこそ共用ゾーンをどう使っていくかによってすごく開かれた大きなものになっていくと思います。難しい運用もあるんですが、例えば播州歌舞伎というのは最初私は素晴らしい舞台をついたら素晴らしい播州歌舞伎が出来るだろうと単純に思っていたんですが、松竹の大歌舞伎とやっぱり播州歌舞伎は全然違うんですね。松竹の大歌舞伎はやっぱりすごい照明・音響の設備があって出来る部分もあるんですが、播州歌舞伎はあえてそういったものから距離をおいてやっています。田舎くさい泥くさいのが播州歌舞伎の特徴だから、余計な光がキラキラまわるようなダンスパーティーで使う様なものは全然いらないと。松竹大歌舞伎でもそこまでしませんけど、そういう感覚の違い。それはそれぞれに誇りを持っている。ブルージーンズでも古着のヨレヨレの色褪せたジーンズが3万も4万もするんだと僕はそういう発想をしてしまうんですが、一方でアルマーニとかああいうすごいイタリアンのスーツ。もうひとつフワッとあまりにも体の線が崩れている、あれほんまにええのかなとか、いろいろファッションにも意見があるんですが、歌舞伎の世界もそういうもので、これは歌舞伎に限らず文化のそういう作り方というのがそれぞれに独自性があるって、そのへんを僕は30年経ってまだ学び得ないことです。だから生涯学習のいろんなまちづくりの中でもそういう普段の発想ではなかなか順位をつけられないし、またつけたらいかんもんだと思うんですが、そういうものをいかにどれを取り出してどれを結びつけてっていう

のは皆さん方のこれからこのあと残られて運用の方には当たっていかれる方がいると思うんですが、そういうところに生かしていく。私の場合そういうヒントをあまり出せてないんですが、何年経っても、すでに引退してあまり助けていることもないんですが、今でもあの時あの時点ではああいう発想しかできなかったなっていうのは常々思います。だから逆にこのまちづくりっていうのは面白い取り組みだと思いますし、これをやらないと本当に多可町は人口減少でなくなってしまうから。やっぱり魅力あるまちをつくるというのが我々のまちづくりプラザの建物を建ててそれを運用していく一番の宿題だと私は思いますので、そのことだけ強調して話としてさせていただきます。

(座長)

今、宮崎様の方からベルディーホールの上げの時の話を聞きました。ベルディーホールは文化ホールなんですけど、生涯学習まちづくりプラザとは多少違う面もあると思いますが、先生のお話の中であった、やりたいことを実現させるとか地域文化を育むまちづくりであるとかそういった面では共通項があるのかなと思います。まず皆さんから宮崎さんの方に何か質問とかがありましたらお受けさせていただきます。

(副座長)

宮崎先生ありがとうございました。貴重なお話を聞かせていただきました。ちょっと住民の方がすごい主体的に加わって、いろんなところから企画のところから入られたり、ソフト面の活動がオープンよりも前から始まっていたこともお伺いして、かなり住民の方の力が強く響いている事業なんだなということを実感したんですけども、これまで継続していくことが一番難しいことだと思うんですけども、継続していくために直面された課題とか、どんなことが困難だったとかそういう印象に残られていることがあったら聞かせていただける範囲でももしよかったですらお聴かせ願いたいと思います。

(宮崎和明さん)

継続事業とか目玉事業といってもいいかもしれません。私達が取り組んだ中で、例えば加藤登紀子の日本酒の日コンサート。あれは最初の頃に登紀子さんをお呼んだときはそういう発想はなかったんですが、あとの打ち上げで一杯飲んでいいるときに「このまちいいね」ということで、聞くと日本酒の酒米のまちらしいから、一度来年はタイトルを日本酒の日みたいに変えて、その時初めて10月1日が日本酒の日というのを私も知ったんですが、山田勢三郎の生誕150年記念かなにかそういう年に立ち上げた1993年からスタートさせたんですが、やっぱり継続して上手くいく部分と「まだすんのか」とか「もうええやろ」とか「金がかかり過ぎとるで」とかいろいろと住民から、「もっとやれ」という声がある一方で「まだやんのか」とか「あれムダになつとるんちゃうか」とか「まちづくりにほんまになつとるんか」とかいろいろあります。そういう声を聴きながら、「よし頑張るぞ」という声になったり、時にはめげてしまって「もうええか」ということになったり、そのときはほかの課の助けを借りる。これホールと評議員だけではもうちょっとしんどい。産業振興課による登紀子の田んぼを作ってその田植えイベントは産業振興課にも一緒にのってもらってやりましょうとか、もうまちぐるみですね。よりこういう大きく広げながら単なるマンネリにならないように、今年はこんなことしたから来年は川柳の募集をして「日本酒の川柳」というのを立ち上げようとか、どんどんつないだり増やしたりしていく。それも金もいる場合もありますし、それでよりまちづく

りのエネルギーにしていくというか。最終的には30年経つともうこれくらいでいかということ去年終わりましたけど、そういうのは演劇セミナーとかいろいろ継続している中で、弓張美季さんのコンサートでもそうです。常にそのマンネリとの闘い。それから層を広げる工夫というのがいると思います。だんだん尻すぼみみたいにやっばりなってきましたので、どんな事業でもね。また見直しもしないといけなんですけどね。同じ事ばかりしとるなということ。やっばりどう変えるかどう広げるかという工夫は絶対しないといけないと思います。

(座長)

ほかにどなたかございますか。

じゃあ私の方から聞きたいことで、今実際にまちづくりプラザを検討していく流れの中で、もう最終段階だと認識をしています。建設委員会が終わって、まちづくり委員会が終わって、じゃあその次は開設準備の方に入っていくんだと思うんですけど、ベルディーホールでもおそらく同じような形だったんですけど、最終的に運営評議会というものの決定をされたプロセスというか、おそらくその当時も指定管理というものが馴染みがなかったのかもしれませんが、町が経営するのかとか、個人が経営するのかとか、NPOでするのかとかいろいろ議論されたと思うんですけど、運営評議会というものに決められたというのは何かポイントはあったんですか。

(宮崎和明さん)

そういう専門員をおかなくてもホールが出来るということの制度的な不備を補うにはもうそれしかないなど。指定管理者制度はもちろんその当時はなかったし、ちゃんと規約に地域文化を育てるということを謳っているわけだから、地域文化を育てるには誰がそれをするんだと。素人がそんな出来るのかということ。ちょっとでも関心を持った人集まれということで、さっきも言ったように、この人はこういう文化活動をしていて舞台をつくることに非常に関心が高いからということで、そういうメンバーを募ってしていったということです。だから文化祭、芸能祭いろんな文化事業をやってるメンバーの中であの人いろんなことで動いてくれそうやと。実際ボランティアに近いメンバーだし、やっばり夜11時12時までかかるわけです。それに耐えてくれるくらい、私は好きだからやるねんという人をどれだけ集められるかだと思います。

(座長)

ありがとうございます。もう一点だけ。ベルディーホールで先ほども言われました落語の6月の分で住民自主企画の私も委員で入ってるんですけど、この住民自主企画というものが非常にベルディーホールにとって僕はポイントだと思っています。幸いにも若い子とよく話をするんですけど、やりたいことがある、こんなイベントがしたい、西脇ではこんなことをやってる、例えば4年前織物の博覧会、播博を西脇がやってる。でも織物業者で言えば6割~7割は実は多可町にあるんです。実際はそうなんです。多可町の織物業者が中心になって西脇で播博みたいなイベントをやって。でもあれが僕も運営委員会でいたんですけど、多可町できへんのかなやりたいなという思いが常にあったんですけど、そういった子が子育てのメンバーにもいたり、前のワークショップの中で高校生が高齢者の方とつながりを持ちたいとか、逆に高齢者の方が中学生・高校生とつながりを持ちたい、何かイベントをしたいっていう案はいっぱいできるんですが、なかなかそれが実現できないです。それは多分予算とか場所とかいう面だと思うんです。それが上手くリカバリーでき

ているのがこの住民自主企画というものだと思うんですけど、こういった動きというのは今ですら例えば県でもまちづくり補助金とかいう形でつくってまますけど、30年前だったらなかなか大胆な発想だったと思うんですけど、この発想はどこからこられたんですか。

(宮崎和明さん)

やっぱり評議員会でも素晴らしいメンバーがおりましたけど、やはり好みがどうしても限られてますから、例えばジャズなんていう領域はあまりポピュラーとかメジャーなものではないですよ。ジャズ好きな人はめちゃくちゃ好きですけど。ジャズが好きなメンバーが私達 20 人の実行委員のメンバーつくるから、これは数で勝負ですね。普通にやったら 100 人くらいしかお客さん入ってこないけど、20 人実行委員会でそういうジャズの演奏の住民企画を立ち上げたら、例えば 1 人 5 枚売ろうとか 1 人 10 枚売ろうとかそういう形のやっぱり集客力を高める、そのためにエネルギーを出せる人 20~30 人集まったら住民企画できるんじゃないかという単純な発想です。生活創造大学で例えばゴミゼロというのが一時期あって、その時にゴミゼロというあまり明るい面白い運動じゃないんだけどゴミゼロのまちを目指すこと自体の行動はね。それにちょっと面白いものを取り入れようと思って落語会をしながらその運動を盛り上げていこうというそういうグループが出来まして、やはりゴミゼロは住民企画であれ 5~6 回落語会をやっているんじゃないかな。そういうパターンの住民企画もあります。普段面白くないものを面白くするために、実行委員会的な組織が出来ていて、それにまたのっかってやりましょうと。集客力を高めるノウハウみたいなものが半分こう重なってきますね。

(座長)

ありがとうございました。こんな機会はなかなかないので皆さん何かあれば。

(A 委員)

運営評議員会がベルディーの創立の時からシンクタンク的なというか運営を支えてきたということなんですけど、ベルディーの運営について例えば現状を分析するというか、お客さんの人数とかを分析するとか、こうしたほうが良かったとかいう反省を打ち出したりということもやられてきたと思うんですけど、どれくらいの頻度というか、いろいろ公演回数とかそんなんによっても違うと思うんですが、年間にそういうように集まって改革的に新しい案を出すとか、そういうことはどれくらいの頻度でやられてきたんですか。

(宮崎和明さん)

私はもう運営評議員会をどいてだいぶなるんですけど、今、運営評議員会月 2 回やっているといます。なかなかそれくらいの頻度でやらないと。できたら 10 時に終わりたいし、昔は月 1 回の時もあったんですが、そのかわり夜中までやりました。やっぱりそれはきついです。それこそ働き方改革をやらないといけません。それともう一つ思うのは、格差とか優先順位とかつくる運営はしたらダメだと思います。最近オリナスを見ていて思ったんだけど、市民が優先的に予約できるとか、市民はこれだけの金額で販売するけど市外の人なんぼとか、そういう格差をしまっているんだけど、もっと広範囲な形でお客さんを集める工夫はすべきだと。こんなお金使っているんだから町の人優先だという理屈はそうなんだけれども、これだけ人口が減ってきているのにそんなこと言ってられないと。ちょっと今の質問の答えから外れてしまってるんだけど。使う社会教育団体もこれ町外の人おりすぎじゃないかとかね。私、北播磨の第九っていうのをやっているんですけど、70 人の

合唱団をつくろうと思ったら多可町民だけでは絶対にできません。けど、今社会登録団体の登録とか無料で使えますというのは7割が原則というのがあった。少なくとも多可西脇、町営でやるんだったら町内町外とかいちいち溝をつくらずに、もうちょっと広い範囲で一緒に使いましょうと。そういう格差はなくしましょうと。町の税金使っているんだからどうのこうのとそういう愚痴っぽいことは言わんとやりましょうと、お互いそういうことをしていきましょうというのはこれからの時代としては満席にしようと思ったらそれしかないと思いますし、そうであるべきだと思います。これだけ人口が減ってきているので、学校の統合と一緒に気持ちは統合してやりましょうというそういう発想でいったら私は良いと。このまちづくりプラザの運営もこういう形で運営してほしいなと思います。

(座長)

ありがとうございます。ほかになければ、宮崎先生このあと時間が大丈夫でしたら是非一緒に話に入ってもらって。

進行では今後の委員会の進め方になっていますが、先にちょっとB委員の方から参考資料として笹倉教授のインタビューというのが皆さんの手元にいつてますか。B委員の方からご説明を先にしていただきましょうか。

(B委員)

実は昨日夕方チラッとというか近所の方なので寄ってらして、私がまちづくり委員だと知っていただいているんだなと思って、その時に何か委員会の参考になればということでご提供いただきました。読まさせていただきます、やっぱり結構長く笹倉先生はあちこちの図書館だとかといったところに関わってこられて、今も大学の方で学生さんを指導されながらいろいろとさくされているんだなというのを知りました。ここでも最後に出ていますけど、正しくまちづくりプラザ、これは8年前に図書館を建設するというので始まって、それにプラス中央公民館も建て替え。これが合わさって地域の課題解決の一つの道具というか場所としてそういう活用の仕方がある活用というのかそういう視点で検討していくっていうのが。それも建設委員会の段階で多分そういったことがいろいろ議論出ましたし、我々の考えていることも先生おっしゃっていただいているので、方向性として間違いではないし、むしろもっと図書館を核にして、建設委員会の時にはとにかく今の図書館はインプットであってアウトプットっていう場がないねという。ましてや今の多可町図書館の場所って狭いですし、そこで声を出して議論というか話をするのもなかなか場所がなくて、ましてやそれを表現するとか、何かをやらせて図書館で何かをやってみるとかそういう場所がないねということも出ていて、今のまちづくりプラザの形が建設委員会の方で出たのかなっていうふうに思っています。今日、傍聴にも来ていただいてまして、皆さん参考といいますか考える一つにさせていただければということで配らせていただきました。

(座長)

ありがとうございます。このチラシの内容のことで何かB委員の方に聞いてみたい方は挙手をお願いします。

今日は残念ながらC委員とD委員がご欠席ということで話なんかもちよっと聞けないんですが、これは私個人的な意見なので、反論があれば反論はしていただきたいんですが、図書館とホールとか会議室とかいう複合型の建物でまちプラができるんですけど、今この私らがやっている生涯学習まちづくりプラザの委員会っていうのは主にまちプラの委員会だと認識をしています。図書館に関しては図書館協議

会っていう組織が現状でも存在しますので、新しくこちらに大きい図書館が来られた時でも図書館協議会の方が中心となって、前も藤賀さんが言われてましたが、皆さんか来やすい賑やかでもいいとか、新しい図書館の面をお伝えされたかと思うんですが、そういったものをおそらく協議会の中で順次考えていかれると思うんです。どこかのタイミングではプラザ全体の動きと、前にもちょっと私の方が以前の畑中館長にご質問をさせてもらったんですけど、協調をする部分は絶対出てくると思うんです。定休日であるとか開館時間・閉館時間の関係であるとか、もちろんそんな無理はできないんですけど、そういった部分でいずれかは図書館協議会のまとめられた新しい図書館になるときのアウトラインとかそういうものをお話をさせていただく機会を持たさせていただいて、このまちプラの方にも参考にさせていただけたらと思うんですけど、図書館長さんどうでしょう。

(生涯学習課長)

いちおう前任までの館長は行政から来たり、退官された先生方にお世話になったりして場をつないできたんですけど、今回は依藤館長ということで、司書でずっと多可町図書館がはじまる時からおられる館長ですので、この施設に一番長くおられる方だと思います。核となるには依藤館長中心で検討していただいて、こちら側にアウトプットしていただく形で進めるのが今のこの人事異動ということを考えますと一番自然なことだと考えておりますのでという前置きだけさせていただきます。

(図書館長)

先ほど宮崎先生の時のお話にも出てきましたけど、図書館の部分とまちづくりの部分で今までは単独でしかできなかったもの、でも今度は大きな施設になって一つのかじゃなくて複合になるということによっての共有して一緒にできることも当然でできますので、今図書館にはサポートネットというボランティア団体もあります。今は図書館の中だけでの活動になってますけれども、今後はこのまちづくりプラザの方の委員会にはどういう形のボランティアの形なり運営評議会なのかかわからないですけれども、そこに一緒に今度は図書館で実働的に動かれている方が一緒に参加するなり、代表の方が行かれるなりという形で一緒に運営していった大きな組織になっていくんじゃないかなと思っています。そういうことも見据えて、私の宣伝になりますが、6月3日に図書館まつりがあります。その時も去年くらいから子育てふれあいセンターの方と一緒にしたりということでイベントを組んだり、今年度も子育てさん来られるんですが、那珂ふれあい館の方が3つの文化の発祥の地ということで、紙芝居とかも多くの方が来場されるんだったらこの機会にやりたい。それを足がかりに令和7年度以降にプラザになった時にはもっと大きな場所なのでまた違うことも一緒にできていくんじゃないかっていうこともあって、今年度からそういうことも始めておりますので、そういうことが今後の答えでよろしいでしょうか。

(座長)

ありがとうございます。

この委員会と新しくできる図書館との関係性はそのように認識しています。今館長が言われたとおりです。できあがったあと、もちろんできる前もそうですけど、協調性を持ちながら1+1が3になるように、お互いのプラスαになるように思っているんですけど、ただ委員会の中で話をする内容に関して、例えば細かな図書館の中の話。こんな雑誌を置いてよとかそういう部分は図書館協議会の方々にお

	任せをしたいと思っていますけど、そこらへんのご意見は。
(B委員)	私は建設委員会の時から参加していて、私が思っているのが、まちづくりプラザ、図書館でもいいんですけど、今度できるものの町の中のポジショニングとかステータス、これをどうするんですかっていうのを聞きたい。21億円かけて投資してやるんですよ。21億円って多可町内の税込1年分です。この金額を投資してどういうものをつくるんですかということです。それを今の組織の範疇で考えておいていいんですかということを知りたい。だからベルディーホールの文化事業としてやるときに、その文化事業を立ち上げるっていつかどれだけの情熱をそこに町が注ぐとか位置づけですね。そういったものどういう温度とか熱意があったのかなというところをお聴かせ願えればなと思います。
(座長)	町の熱量とは役場の中の熱量ということ？
(B委員)	役場の中とか
(座長)	多可町全体としての熱量ということですね
(宮崎和明さん)	役場の職員の有志でプロジェクトチームみたいなのを立ち上げたんじゃないかな。その中の一つにまちづくりには例えば本も必要だしこういうイベントもせなあかんとか、そういう機運とか熱意という出来上がったものかかわりませんが核にあったんじゃないですかね。私なんかは途中からフツと入っていただけで、機運が盛り上がるというそのプロセスを十分理解しないままに、元々中学校におりましたから、そういう役場職員の一つのかたまりのエネルギーが一つであって、それにいくらか集まったってそういうイメージでいるんですが。
(B委員)	でもやっぱりそういったものが多可町に必要なだと思っている熱い人がいたということは確かなんでしょね。すいません、そういうふうなイメージで私は考えている捉えているというだけで、ただこの運営委員会のゴールというのをこれから示されようとするので、そこに向かって少しでも具体的に自分の思いも言っていけたらなと思っています。
(座長)	B委員の本音的な話だと思うんですよ。まちづくりプラザイコール図書館で思われている方がたくさんおられますしね。今、私らが検討しているのも図書館の検討委員と思われている方も実際におられます。先日多可町議会の方々が開催されました議会の方と語ろうという中でも20何億もかけるんだったらほかに金かけるとかいう厳しい意見を言われる方もおられました。金銭が高い安いは私にはわかりません。私らがこの委員会で考えるのは、あくまでも住民主体の建てて良かったな、やりたいことができたな、いろんなつながりができたな、誰一人取り残さず皆がつながれるような居場所ができたなと思ってもらえるその価値観を目指したいというように思います。B委員の熱い気持ちは十分伝わりましたので。
次第3	今後の委員会の進め方について
(座長)	ここからは今後の委員会の進め方です。ここから核心的な話になります。前にB

副座長が一生懸命つくっていただいた今後の検討内容・スケジュールという資料も前の会議でありましたので皆さんご存じていただいているかと思います。約2ヶ月前の話になりますけど、結局はきっちりした目的を決めましょう。でミッションどんな目的でやりましょうか、ビジョン目標である3年後5年後10年後はどうか、バリュー運営するさいの価値観とか判断基準とかいう話をしていただいた。もちろんこれを念頭に置きながらなんですけど、あまりにも固すぎると話が煮詰まってしまうところがあるので、これも立ち返ってってなんですけど建設基本計画答申書の中で、このまちづくりプラザの基本理念これが一番大切な部分だと思うんですけど、「地域社会の中でみんなに出番があるように生涯にわたって知識を深める為の居場所や集える場の整備を目指す」これが基本理念なんです。これはもう言われるとおりなんです。これを目指しているんです。ただこれを住民のみなさんに問いかけた時にこの文章でイメージとしてわかりやすいかどうか。例えば西脇のミライエなんかでしたら「人集う人つながる人育む交流の場」これが基本理念なんです。もちろんこれとは別に長い基本理念はあるんです。その短縮版というかキャッチコピー的なものなんです。でもこういうある面一行で書けるキャッチコピーというか、例えば最近できた西神中央ホールっていうのができたんです。同じように図書館と公民館施設のようなものなんですけど、「おかえりサロンただいま」これがキャッチコピーなんです。パッとなんとなくイメージとしてはわかりやすい。ちょうど西神中央駅にあるので、仕事とか学校とか帰りにちょっと寄ってよみたい。図書館に寄ったり、みんなでちょっと話をしたり、いろんなイベントをやっていたりみたいなどこなんですけど。そういうような住民のみなさんに伝わりやすい、この基本理念は基本理念で文章として置いておいて、わかりやすいキャッチコピーがあるんじゃないかと思うんです。そこらへんをみなさんで検討をいただきたい。それともう一つは、ベルディーホールでありましたけど、B副座長の方でもありましたが、愛称です。「生涯学習まちづくりプラザ」っていうのが正式名称なんですけど、今は仮に「まちプラ」と言ってます。もしかしたらこのまちプラが呼びやすくなるかもしれないけど。西脇のミライエもそうです。ミライエ、何か良い感じです。オリナス、アスパル、こんな感じでイメージがしやすい。多可町らしさのイメージしやすい愛称の募集をしたらどうかと思ってます。これはみなさんの意見を聞いてですけど、この委員会の中で決定するのか、もしくは住民のみなさんに公募という形でいただくのか。尚且つ7年にできて、これから10年後20年後30年後にまだまだ活躍してもらおう建物なので、今の小学生・中学生・高校生も入れて考えてもらうとか。そういったところも検討していただきたい。最終的にはこのまちづくりプラザはどういう形で運営をしますか。町営ですべて町の方にお任せをするのか。それともNPOを有志が立ち上げてNPOでするんですか。指定管理を募集して指定管理でするんですか。それともベルディーホールのように主体は町ですけど運営としては運営評議員会というものがしっかりと中に入ってそこが運営をしていくと。もちろん運営評議員会というのは住民の住民による住民のための会ですから住民が主体的にやっていると言っても間違いではないと思うんですよ。最終的にはそこをまとめる形で行きたいと思う。この3点くらいにピックアップをしながら、途中でPRも兼ねてもう一度ワークショップ的な、住民のみなさんに集まっていた前1月にも人数が10人も集まったらいいかなと心配してたのが、50何人か大勢来ていただいてみなさん関心を持っていただいているというのがよくわかったので、もう一度ワークショップ的なことをして、建物も今度解体ができて建築も始まりま

すので、その流れが出来上がっている状況の中でワークショップをすとかいうのも考えながらというところを組み立てていってもらったらと思います。

私の方が今一方的にしゃべりました。訂正やいや座長それは違うよとか、いやこれももうちょっと掘り下げて考えたらいいんじゃないのというところがあれば、E委員何かありますか。

(E委員)

僕らも建設委員会があつたりして、僕らは商工会青年部として2名去年から選ばれて、どういう立ち位置でどういう感じでいったらいいのかなというのわからないままずっと続いていたんですけど、こういう運営のところから僕らの出番なのかなというところはあるんですけど、実際僕自身も個人経営みたいなものなのでなかなか運営というところはF委員の方が得意な部分もあるので、そういった意見、青年部の中で話をしたりとか、こういった協議会があつてこういう感じで建設していくんやでという話は青年部の中でもちよろちよろとは話をするようにしているんですけど、まだなかなか青年部の中では興味を持つ方も少なく、いろんな意見がなかなか出てこないんですけど、もうちょっとこういう運営状況であつたり、中の組織の動きであつたりを話を少しでも意見を出せるようにちょっとずつ動いていきたいとは思っています。

(座長)

ありがとうございます。

商工会から代表でもあるんですけど、私は常に多可町の持つ魅力といえば山田錦、敬老の日、杉原紙的なことを言われるんですけど、播州織物っていうのも一つ常に思うんです。何でそれも入れないのかなと、多可町の持つ魅力の中に播州織っていうのも多可町からできて多可町から盛り上がって、今頑張っている若者はみんな多可町の子なんです。東京のデザイナーとかと提携していろんな企画展を東京でやったり大阪でやったりやっているの、そういったところで商工会の方も今青年部非常に盛り上がっているんで、ぜひ協力をよろしくお願いします。

今私が言った流れの中でA委員何か。

(A委員)

大きい3点を決めていかなといけないと思うんですけど、決定の期限までのスケジュールというかそれが見えてないんです。この委員会でいつまでに決めて行ったらいいのか。そのことと、もう一つはいつも全体で意見を出し合っているの、なかなか、いいんですけど非効率というか。僕はチームで原案を出すというかそういうこともいいんじゃないかなと思うんですけど。

(座長)

まず一つ、期限なんですけど、前にB副座長の中にもあつたんですけど、いちおう目処としては令和5年8月～9月を答申の目処としています。もう一つ、チーム制のことなんですけど、もう一度質問をわかりやすくお願いできますか。

(A委員)

スケジュールのどこ8月9月に答申を完成するということですね。それまでの基本理念ほか3つ大きな決めることがあるんですけど、もっと具体的なタイムスケジュールというか、何月の中旬にはこれを決定しておかないとあかんとか、そういう縛りというか、ずっと押していってしまうんじゃないかという恐れがあつて、まあそのへんしっかりやれたらいいと思うんですけど。

チームは、今3つ提案されましたけど、全体の課題でもあるんですけど、みんな

で全部を考えていくのはちょっと効率的にどうか。効率を考えるとかわからないですけどね。何かチームの良さも反映したらいいんじゃないかなと。

(座長)

チーム制という話が前回の会議の中であつたんですね。その時はちょっとチーム制っていうのはこの少人数で分けてっていうのは非効率だということになつた経緯があつたんですけど。例えばビジョンをもうちょっとわかりやすいキャッチコピーを考えると、例えば愛称募集というのはもう募集すれば済むことですから、あとはこの委員が知らない方にももちろん広報でもたかTVでもしてもらおうでしょうが、委員が自らこんな募集してるねんていって友達に話をすることもあるし、ワークショップの中でそれを決定しても別にいいかなとは思ふんですね。それで一つワークショップもできるので、自分の考えた名前が建物の名前になつたなつてなれば非常に愛着がわくでしょうし、あと最終的に運営する母体というか、じゃあどんな形で運営するのかというのは、全体全員で最後の山だと思ふんです。きちりと答申の中に入れていけないので。それまでを9月の末。もうそれ以降はずれない。というのはその時点で決めて、来年度の予算的なこともあつて、じゃあ次に実際に運営をされる準備母体というか、形はわかりませんがね。その準備に入る予算が必要となるので、9月末、入っても10月がラインかなというのが前のB副座長のスケジュール感にもあつたので、それでいきたいと。その中でワークショップが1回、もしくは2回でもできればいいかなというところです。

これ建物的な壊されるとかいうのは業者は決まってるんですよ。いつから工事は。

(生涯学習課長)

6月かかりの9月いっぱいということになっています。その建物自体の取り壊しが。本体工事自体は10月頃から着工という形で計画されています。タイムラグはほとんどない状態でいくのかなというふうに考えています。

(座長)

よく小学校とかだったら統合したときに、例えば私の母校ならさよなら八千代西小学校とかイベントをするんですけど、さよなら北アリーナみたいなイベントはないんですね。

(生涯学習課長)

考えてなかったです。

(座長)

でもそんなこともしながら何かそこに子供達とか子育てふれあいセンターのとなりがあるので、そういった方たちとも連携をしながらしていけたらいいなと思います。

(B委員)

この前の委員会で、いきなりB副座長のチーム制をとって検討しようという話で、その時私は今のゴールが答申をするということで、じゃあ答申のどういう項目というか事項を答申していくかということ、その中心になるのがビジョンだと思うんですけども、まず何をするかということとか、何を検討していくところでは共有しておかないと全然バラバラになってしまうと思ったので、ある部分についてはある時期からチーム制をとってということは一番良い方法をとっていかばいいというふうな話をしました。今、座長の話で、答申は9月で答申をしますと。答申のあとやっぱりそれは具体的な住民委員会という実行組織に移っていくとい

う3段ロケット式になって、この運営委員会というのはそういう意味では広報と運営の大まかなビジョン、方向性みたいなビジョンですね。それと愛称。それは建設委員会でも愛称を考えましょうっていうふうな話が出てたと思うので、それに沿って愛称をどうしましょうと。この3項目くらいっていうお話と聞いたんですがそれで議会はいいですか。

(座長)

私としてはそこでいいと思うんですが、例えば開館時間をどうするとか、利用料金をどうするとかいうのは、それはもう実際に運営をされる母体、それが町になるのか指定管理になるのかそんなのは別ですよ。この委員会で決めるものではないのかなと思っています。

(B委員)

そうですね。ただそういったこともビジョンに基づいてそういったものって決まってくる部分ってあると思うんですよね。そういう意味ではビジョンの部分ってどうビジョンを考えるのかイメージが今わいてませんが。まあそういう部分で議論は必要なのかなと個人的には思っています。それこそ委員の方のそれぞれの思いっていうのをもう一度発言して聞くなり、そういったところから見えてくる部分あるのかなと思っています。

(座長)

ありがとうございます。確かにビジョンあって進む。中心ですからビジョンは。そこはぶれないようにしながら、ただし基本理念としては前回の建設基本計画の答申のこれを基本理念としてはそのまま活用したい。

(B委員)

それは動かさない

(座長)

もうそれをするんで。その中のコンセプトとかビジョンとか、それをみんなきっちり決めて押さえて共通認識として持っておきたいというところです。
A副座長何かあれば。

(A副座長)

B委員がおっしゃることは非常に理解して、やっぱり共通のここの同じ方向を何となく向いてるけど本当に向いてるのかとか、きちっとしたビジョンみたいなことが共有して、A委員からお話があったらいついつにこういう答申をするということがあってはじめてみたいなどころもちよっとあると思うので、8月9日に答申をしなければいけないということもあまり時間もない中なんですけども、A委員がおっしゃっていた部会で進めて行くというのも私も一つすごく賛成な進め方ではあるんですけど、去年度の反省とまでは言えないんですけどAチームBチームに分かれて広報のこととかやったんですが、私の所属していたBチーム結局動けなくて、チーム制が失敗してしまったのが直近であったので、本当にどれが良いのかという。私もすごく考えてたんですけどなかなかちょっと難しいので、正直なところ私の中では判断がついてないのが現状です。

(座長)

ありがとうございます。なかなか難しいのは難しいんです。ないものをつくろうとしているんですから。それも必ず成功させなアカン。10年20年30年経ってあんななん何でつくったんやと言われるようなことは絶対にしたらアカンことなんで、非常に厳しい立場でありながらやりがいのあることを意気を感じていただけたら

にみなさんにお世話になった。このお陰で良くも悪くもみなさんにまちプラという
ものができるんやでということが大きくPRできたと思います。でもまだまだそう
言いながらも知ってない人もおつてでしょう。A委員どうですか。A集落では大
半の方が知っておられますか。

(A委員)

そないいわれたらね。周知の時は隣保回覧で回す。それでも家族みんな見てとは
限らへんし、周知の方法はいくらあってもいいと思いますけど。

(座長)

まちプラ通信とかいろいろやったり、広報の特集やったりいろいろしてるんで、
もちろんできるということはみなさんご存じで。実際今度建物がつぶれていくと、
「何しよんやあれ」ということでまた興味もわいてこられると思うんですけど、も
っともっと良くも悪くもみなさんが関心を持っていただいて、実際私のとこに直接
「なんでこんな高いもんつくんねや」とかいうて電話をかけてくる方もおられるの
で、私はうれしい限りなんですけど。でも話をきっちりすれば理解をさせていただ
けるので非常にありがたいことなんですけど、もっともっとPR的なこともワークシ
ョップを含めてしていきたいと思います。そこらへんの案もあれば別に会議の中じ
ゃなくても直接事務局でも私の方でも副座長の方でも伝えていただければいいと
思います。

(B委員)

やっぱりそれだけに、知ってもらう人が出てきたらやっぱりビジョンとしてこう
いうふうに考えてるっていうのをお話できるようにしたいですね。

(座長)

どういう思いでつくったかとかね。

でも、前にも言ったけど、ミライエなんかは最初散々でしたからね。私も関係し
てたので。最初の2年間はどれだけ人が来なかったか。結局、明石の図書館、淡路
の図書館3つが合同してどうやったら人が来るんだろうと検討会をつくりだして
からようやく3年目くらいから人が来だして、幸いにも茜ヶ丘が当時は半分以上空
いてました。できたときは。それがなぜかしら人が住むようになって、宅地が増え
てきて、幸いにも近くに学校があって、いうところで入館者というかが増えてきて、
ちょっとまた今苦戦しているんですけど。館長に聞くと。最初からそんなにね。
そりゃオープンの日は来ますよ。でも2年3年苦労に苦労を重ねて、形を変えたり
、想像力を変えたり、仕組みを変えていくことによって、必ず成功させないとあ
かん。

(B委員)

まさしくその行動が試行錯誤することが本当にまちづくりなのかなという気が
してます。さっきの宮崎先生の話だと、本当に大きな一定の集客っていう視点から
のお話を踏まえてなんですけど、まちづくりプラザについては一人から参加できる
くらいな感覚を私は持ってまして、ちょうど最近芦屋市長が面白いことを言っ
て、教育は一人一人個人のような知りたいたとかそういう欲求に基づくそれにどう
応えるかだみたいだね。やっぱり言ってる人が灘高・東大・ハーバード卒ですから
説得力があるかなと思って。でもやっぱりそういうふうなことに応えられるような
施設になっても面白いなっていうふうには思ってます。試行錯誤しながら、折れな
い心で。

(座長)

私の頭の中のイメージとしては、プラザがあって、横に子育てセンターがあって、アスパルがあって、1年後には中学校ができる。もう一つ言えば多可町の日赤病院がある。それも大切な施設だと思ってるんです。そこもすべて含めて、給食センターまで入れて、あそこらへんがまちづくりのいろんな面白いことがたくさんできるんじゃないかとなという期待があって、そういったことができることが生涯学習につながっていった、誰一人取り残さないみんなが気軽に集える、生まれたての子供から来ませんが、小学生からご高齢の方までゆっくりのんびりとしていただけるそういった居場所になればいいなと。もちろんその方が今まで図書館カードを持っておられない方もこの機会に図書館カードをつくっていただいて、図書館で本を借りていただく。逆に図書館をご利用されている方もこんなとこにちょっと遊べるD I Yの部屋があるんだとか、小ホールがあるんだなというところで、こんなイベントがしたい、こんな企画がしたい、播博の多可町版がしたい、それを応援する予算と建物と場所と人員とサポートボランティアができれば、それこそまちづくりプラザの意義があるんじゃないかなと、個人ではずっと思っています。もちろんみなさんの意見は意見であると思うので、それもゆっくり聞きながら検討したいと思います。

(教育総務課長)

本当にいろんな考えというものを聞かせていただいたということは、非常に今日こちらに寄せていただいて本当にありがたかったかなと思っています。宮崎先生のベルディーホールというものについては、実は私生涯学習課にいたことがありますので、2年間お世話になったということもあります。その時に感じたのはホール、ハード面を整えるだけでは、それだけではダメだと。やっぱり評議員さんなりそういう人がいて成り立つんだなということを感じながら、本当に夜遅くまで議論されているのはよく見てましたので、それは痛感してます。それと令和元年だったかな。実は若い子達のコンサート。どっちかというところちょっとハード系のそれをやられたというのが、実は若い子達の意見を尊重されて、かなり年配の評議員さんが多かったんですけど、若い子達の意見を尊重して、しかも実行委員という形で若い子達に任せたとすることで、非常に弾力的なそういう考え方もされていたということで非常に感動したというところもございます。もちろん若い子達も一生懸命やってたんですけど、それを任せた大きさとかそういうことも感じて、やっぱりそういう人達がやっておられたから継続的にできたんだろうなというのを感じてます。その中で今日みなさんからのご意見をいただく中で、まちづくりプラザの方に少しずつ、ちょっと想像してたんですけど、やっぱりそこへ行って人と出会うとか交流を深めるというのはもちろんそうなんですけども、実はそこへ行って学べたり、いろんな形で気持ちを整えたりして助けてもらったりする人が、そこへ行くことによって逆に助けることができるような場所になったらいいなと。人を育てる場所になったらいいなと。やっぱりそうすることによって自分というものを見つめ直せるし、住民にとってそういうことが、そこへ行ったら誰かに出会える、あるいはそこへ行ったら誰かに頼ってもらえる。そういう場所になればいいなと思いつつ聞いてました。僕はどっちかと思ったら図書館の、4月までは商工観光課でしたので図書館にはあまり関係なかったんですけど、図書館にずっと行ってました。月に1、2度ですかね。で、本を借りるという形をさせていただいたので、やっぱり行きたいなという場所だったので、そういう場所が実は複合的にできあがるということであれば、なお魅力的な場所になるであろうというふうに思っておりますので、みなさんから貴重な意見を積み上げていきながら、ハード面だけじゃなくて内面的にも立

	派な施設になればいいなと思っています。今日は貴重な意見をいただきありがとうございました。
次第4	その他
次第5	閉会
(副座長)	A副座長あいさつ